

水稻

1 田植え

出穂後、平均気温がおおむね27度を超える日が続くと登熟障害がおこり、充実不足や乳白米の発生し、品質や等級が低下します。平均気温が下がる時期に出穂するよう田植え時期を調整することが必要です。

ヒノヒカリの田植えは、早植えを避け、6月20日以降の田植えを徹底しましょう。

2 育苗苗の施肥

育苗後半に肥料不足を生じた場合、活着を良くするために施します。

硫安の300倍液(20箱当たり硫安33gを水10リットル)を
500ml/箱散布する。

3 箱施薬

散布量が少ないと、持続効果や防除効果が劣るので適正量を散布します。

ビームアドマイヤースピノ箱粒剤	50g/1箱	移植2日前~移植当日
フジワンプリンス粒剤	50g/1箱	移植3日前~移植当日

効果を安定させるために、できるだけ前日までに散布します。

4 除草剤

除草剤の効果を良くするためには、雑草の発生前から発生初期が有効なので、遅れないよう田植え後1週間以内を目安に散布しましょう。

薬剤名	使用時期	散布量
スラッシャ1キロ粒剤	田植え後0日~ノビエ2.0葉期まで	1kg
シリウスターボ1キロ粒剤	田植え後5日~ノビエ2.5葉期まで	1kg
シーゼットフロアブル	田植え後0日~ノビエ1.5葉期まで	800~1000ml
ナイスショットジャンボ	田植え後3日~ノビエ2.0葉期まで	10パック
ショウリョクジャンボ	田植え後0日~ノビエ2.0葉期まで	10パック

ノビエ2.0葉期の目安は、おおむね発芽後(代かき後)10日程度である。

シリウスターボ1キロ粒剤及びショウリョクジャンボは、いぐさに対し薬害を生じるので、隣接田では使用しない。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!